

ひだまり だま 2022Vol. 13

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和4年3月1日 第13号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

も
く
じ

地域文化学科について	1
後援会長あいさつ、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
学生の学修の利に資すること—本委員会の取り組み—（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

地域文化学科について

地域文化学科には例年、全国からたくさんの受験生が集まります。現在の在籍生を見ると、秋田県出身者が約7割を占め、秋田以外の東北5県からが約2割、残りが東北地方以外の出身です。近年は県外出身者が徐々に増える傾向にあります。また、定員100名に対して1パーセント強と数は少ないですが、アジアからの留学生がいるのも特色といえます。男女比はおおよそ35:65で、女子学生が多い構成となっています。

入学して1年目は、外国語や学科共通の科目を主に学び、2年生に進級する時点で学生の希望により国際文化コース、地域社会コース、心理実践コースという3つのコースに分かれます。このとき1年次の成績や取得単位数、あるいは各コースの定員などによる制限はなく、自由にコースを選ぶことができます。また、地域文化学科が教育文化学部の中にあるため、教員免許の取得が必修で教員を目指す学生が多いといった誤解があるようですが、決してその

様なことはありません。ただし、希望すれば、中学校や高等学校の教員免許を取得することもできます。

地域文化学科で学べる主な学問分野は、国際文化コースでは歴史文化、芸術文化・文学、コミュニケーション文化、地域社会コースではガバナンス、ビジネス&マネジメント、コミュニティ、心理実践コースでは学習心理学、発達心理学、福祉心理学などで多様な領域をカバーしています。心理実践コースでは認定心理士の資格も取得できます。

入学と同時に学生一人ひとりに主担任と副担任の教員2名が付き、様々な学生相談に応じています。各学年とも1名の教員が5～6名の学生を受け持ちますのでかなり充実しています。卒業後は6割前後が民間企業に就職し、3割前後が国や地方自治体の公務員となり、5名前後の学生が大学院に進学しています。

地域文化学科主任 渡辺 英夫



国際文化コース（佐藤猛ゼミ）

西洋史の授業で、学生達はジャンヌ・ダルクの予言に関して伝説の専門書を講読しました。



地域社会コース（益満ゼミ）

益満ゼミの学生は、大仙市にある(株)金紋秋田酒造で酒造りを体験しました。



心理実践コース

「心理実習Ⅴ（医療）」で、4年生がいなみ小児科ファミリークリニック院長とやり取りをしている様子です。

人と人との本当の繋がりを

教育文化学部後援会 会長 土田 俊一

豪雪と言って差し支えない降雪に見舞われた今冬でしたが、ようやく春の足音が聞こえ始め、また出会いと別れの季節が巡ってきました。

教職員、会員の皆様におかれましては日頃から後援会活動にご理解、ご協力を賜りまして感謝申し上げます。また新型コロナ蔓延の影響から昨年同様後援会としての理事会、総代会は書面での会議となり、対面での交流がなかったことは残念に感じております。

さて今年度は夏のオリンピックと冬のオリンピックが開催される希な年度となりました。開催の是非はともかく、その両オリンピックで日本選手のイン

タビューの際に共通することがありました。それは一様に周りに対する感謝の気持ちを述べていたことです。それは選手と周りの人たちの信頼関係によるものと思います。その関係はそれぞれの人と人との良好な関係構築の賜物であることに異論はないでしょう。そのためにはお互い実際に向き合い理解し合うことなくしてはできません。対面での行事等が難しくなっている今の状況でも必要なことと思います。

現在の混沌とした世界情勢はこの先どの様に変化していくのか不透明です。でも皆様は種々の困難に立ち向かい、乗り越えてきた者同士の一体感と力があり、それは今後きっと役立つはずで。卒業される皆様にはこれまでの経験を糧として、人と人との本当の繋がりと信頼関係で未来を切り開いていかれることを祈念しております。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和4年3月卒業の学生4名からメッセージをいただきました。保護者の方、学生のみなさんに参考になる内容です。

教員採用試験を振り返って

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 田沢 亮

私は神奈川県教員採用試験に合格し、4月から小学校教員として働くことになりました。今は中学生のころからの夢が実現し、子ども達と楽しく学べる日々を待ち遠しく思っています。

私は大学推薦を用いて受験しました。1年次にこの制度を知り、日々の授業を大切にしてきました。この制度を利用したことで1次試験が免除され、2次試験対策に多くの時間をかけることができました。教員採用試験の対策を本格的に始めたのは3年の12月頃でした。まずは、就職情報室で受験する自治体の出題傾向などの情報を集めました。1次試験に向けては基本的な知識を身に付けたのち、1冊の問題集を何周も解き、知識の定着を図りました。3月、大学推薦の説明会で自分が受験したい自治体の募集が今年度もあることを確認し、学内選考に応募しました。その結果、神奈川県小学校の大学推薦をいただき、4月から2次試験の面接対策を始めることができました。面接対策は就職情報室にある先輩方の報告書を参考に自身の回答を考え、友人と実際の面接形式で練習を繰り返し行いました。一般の受験者に比べ2次試験対策の時間が長くとれるため、試験当日の面接では、一段上の受け答えができなくてはいけないと考え、面接の準備に多くの時間を費やしました。その後、自主ゼミの面接練習や模擬授業対策で完成度を高めていきました。受験を控えている皆さんも早くから面接対策を行えば、準備期間の短い2次試験ま

での自分を助けることができると思います。

今回、「ひだまり」で教員採用試験を振り返る機会をいただき、改めて1人では乗り越えられなかったと感じました。友人・先生方・就職情報室の職員の方々に支えられ、夢を叶えることができました。これからも周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、成長し続けられる教師になりたいです。

就職活動を振り返って

教育文化学部 地域文化学科

国際文化コース 千田 朝香

私は国家公務員採用一般職試験を受験し、東北厚生局から内定をいただきました。就職活動を振り返り、私が取り組んでおいて良かったと考える点は2つあります。

まず一つ目は、選択肢を絞らないことです。私はもともと、生まれ育った秋田県の役に立てる仕事がしたいという漠然とした思いから、地方公務員を目指していました。しかし、公務員試験対策として様々な官公庁について調べているうちに、公務員にも多種多様な職があることを知り、そこで興味を持った官公庁の説明会やインターシップには積極的に参加するようになりました。そうすることで、実際の仕事のイメージが湧きやすくなり、自分が本当にやりたいことは何なのか、どういう仕事に向いているのか、について自己分析しやすくなりました。私が最終的に内定をいただいた東北厚生局も、説明会に参加していなかったら選択肢に入っていなかったと思います。興味を持った説明会等に積極的に参加することで、より

良いキャリア選択ができると思います。

二つ目は、大学生としての時間を有効的に使い、様々な挑戦をすることです。私は、アルバイトやサークル活動、留学、ボランティアなど、大学生のうちに様々なことに挑戦しました。就職活動のためというつもりはなかったのですが、これらの経験が就職活動で本当に役立ちました。面接のネタとしては勿論、場数を踏んできた経験は、就職活動でつまづいてしまいそうなときでも自信に繋がります。何か新しい挑戦をして、それを乗り越えたことは、どんな職種を目指している人でも活かせる場面が来ると思います。大学生という自由な時間がたくさんある時期を大切にしてほしいです。

最後に、私は就職活動の際、友人や家族、教授や大学職員の方々の支えに本当に助けられました。間接的になってしまうかもしれませんが、皆さんに恩返しをするつもりで、4月から仕事に励んでいきます。在学生の皆さんの就職活動、応援しています。

皆さんは遊んでいますか？

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース 本庄 祐介

皆さんは遊んでいますか？

いかがでしょうか。日々の授業やアルバイト、就活等に追われて遊んでいないという方もいるでしょう。余裕がないときに真っ先に削られるのは「遊び」の時間でしょう。

しかし、就活を終えた私から言わせてもらえば、「遊び」は他の活動に引けを取らず大切なものだと思います。それは、「遊び」は余暇をリフレッシュして過ごすという一般的な役割に留まらず、就活を進める上でも役に立つ、価値あるものだと考えているからです。

就活と「遊び」、まるで水と油のように混ざらないものように思えるかもしれませんが、そんなことはありません。ここで私の経験をひとつ。

私はとかく遊ぶことだけは熱心な人間ですが、自動車のナンバープレートに興味があり、県外ナンバープレート探しをひとつの「遊び」としていました。そして、就活の真っ只中、とある企業の最終面接という場面で、自身から振ったわけでもなしに、どういうわけかナンバープレートの話が出てきました。ここで話題を自身の「遊び」の内容に持っていくことで、自身の緊張を解し、同時に面接官に対して「面白い、他の人とは違う着眼点を持っている」という好印象を与えることができました。その後その企業から内定を頂き、就職することを決めました。

偶然が重なった事例ですが、私はこの経験を受け、「遊び」は他の活動に引けを取らず大切なものと考えようになりました。たかが遊び、されど遊び、「遊び」が私の人生を大きく変えたわけです。

改めて、皆さんは遊んでいますか？どんな遊びをして

いますか？

「遊び」をする上で繋がった人間や得た知識、技術があるでしょう。きっと芸は身を助くでしょう。

勿論普段の講義、アルバイト、ボランティア活動、就活を進める上ではエントリーシートの添削指導や面接練習も大事にしてください。それらを行った上での「遊び」は自身と他者との差となり、きっと役に立つでしょう。

皆さんがたくさん遊び、悔いの残らない学生生活を送れるようお祈りしています。

学部の学びと大学院進学

教育文化学部 学校教育課程

特別支援教育コース 山田有輝也

私は大学4年次の今年度、千葉県と茨城県の教員採用試験で合格を頂くことができました。そこには、特別支援教育コースの先生方、家族、かけがえのない友人の支えがあったからです。でも私は4月から千葉県の採用猶予制度を利用して、本学の教育学研究科・専門職学位課程・発達教育・特別支援教育コースに進学することにしました。大学院進学理由は、学部時代の学びをさらに深め、授業力、生徒指導、学級経営など、自信をもって特別支援学校の教壇に立ちたいという思いからでした。

本学では特別支援教育コースに所属し、講義や実習、ボランティア活動などを通して、学びを深めてきました。大学3年次の附属特別支援学校での実習では、実際の学校現場で、生徒と共に、主に数学の授業実践を行いました。一人ひとり準備する教材や言葉がけに留意するとともに、ティームティーチングによる指導を通じて、より一層、特別支援教育の奥深さを実感することができました。また、学外では知的障害者の余暇活動を支援するボランティアサークルや秋田県チャレンジスポーツ連盟のサッカーのボランティアなどを通じて、私自身も会員さんや選手との関わりの中で元気をたくさんもらいました。4年間の学びを生かし、子どもと共に成長し、子どもの良いところを大きく伸ばすことのできる特別支援学校教諭になりたいという気持ちが大学入学当初よりもとて大きくくなりました。そして、大学4年生になり、採用試験の勉強をしていく中で、今のままで教壇に立ち、子どもたちの充実した学びにつながる指導ができるのか少し不安を感じるようになりました。秋田大学の教職大学院では現職の方と学べることや、素晴らしい先生方からご指導いただける環境が充実しています。また、教員免許を取得した上で行うことができる実習を通じて、指導力を高めること、さらに専修免許の取得もできることに魅力を感じて、進学を決意しました。

2年後に地元の千葉県で特別支援学校教員になります。学部での学びをさらに大学院で深め、理論と実践の往還を通じて、高度な力量を備えた教師を目指したいと思っています。

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員会委員長 篠原 秀一

秋田大学教育文化学部キャリア委員会は、学部固有の就職情報室と本部学生支援・就職課と連携し、教員が構成するキャリア委員会と事務方により学生の就職を支援しています。このキャリア委員会は、実働的には教職・公務員・企業の3部門に分かれ、基本的には入学後の在学生全員を対象とし、重点的には3年生後半からの就職活動学生を支援します。特に、学部就職情報室の役割は大きく、常駐の事務系スタッフ2名が随時訪ねて来る学生たちの就職相談・資料請求に対応します。この就職情報室こそ、学部就職支援の拠点で、就職志望学生相談の場であり、登録学生への就職情報・支援情報がメール等で適宜発信される場です。この場合は、皆様から寄せられた後援会費からの補助で運営が可能となっております。今回も厚く御礼申し上げます。

昨年度来、学生たちの就職活動も私たちの就職支援も、「新型コロナウイルス感染拡大防止」の影響を大きく受け、就職試験も就職支援研修会も多くが遠隔式会合となっております。遠隔式面接が普及したことにより、就職活動の範囲を広げている学生もいますが、逆に、遠隔式面接で自分を十分に理解してもらえないのではとの不安をもつ学生もいるようです。それらの不安もふまえた「キャリアガイダンス」や「先輩と語る会」を、可能な限り企画しておりますが、それらのお知らせが「コロナ」下で増えたメール群のなかに埋没するせいか、折角の企画への参加者が数年前よりも少なくなりました。就職支援の学部企画も本部企画も無料ではありますが、十分に役立つ内容となるように工夫しておりますので、在校生の皆さんには大いに参加して欲しいと願っています。今後も、「新型コロナウイルス感染拡大防止」に気をつけつつ、できる限りの就職支援機会の確保とその広報に努めて参ります。

教職部門では、学校教育課程の教員を目指す学生を対象とし、正課での学習を補助するかたちで就職支援しています。今年度の「スタージュ」「教職自主ゼミ」も遠隔式で随時開催され、4年生春対象「スプリングキャンプ」も3年生秋対象「オータムキャンプ」も、学内にて実施しながらの対面式1日帰りの濃縮型研修として実施いたしました。「オータムキャンプ」は合格した4年生の助言を活かし、3年生が教員採用試験準備を基本から本格化させる契機であり、「スプリングキャンプ」は現場経験の豊富な実務家教員達の見識と助言も活用し、3か月ほどに迫った教員採用試験対策を個々に練られる機会です。この「スプリングキャンプ」と「オータムキャンプ」は来年度こそは、できるかぎり例年通りの

内容・日程で実現できることを願っています。「教職自主ゼミ」でも秋田県教育を現場で長年支えられた実務家教員の先生方の協力を得て、十数回にわたって教職に就く準備を進めます。また、来年度も、秋田県内外の地方自治体の教育委員会に対して、キャリア委員会が一定水準以上の学生若干名を「大学推薦」学生として推薦できます。それら推薦された学生たちが2次試験に必ず合格するとは限りませんが、試験の一部が免除されます。

公務員部門では、地方自治体・各省庁の就職説明会・インターンシップについて、在学生に随時頻繁に詳細な情報を提供するほか、公務員部門教員が希望者の面接試験対策に個別に対応しています。公務員を目指す学生には、各種就職説明会等への参加を強く奨めます。公務員の仕事は旧来以上に幅広く、必要とされる能力が企業人たちに近くなる傾向はさらに加速しています。したがって、公務員試験自体も従来型「公務員」としての知識だけを問うのではない、まるで企業のような採用試験も増えています。

企業部門では、公務員部門と同様に、就職情報会社の協力も得て内容を精選した「就活スタート講座」を秋に開くほか、3月初めには全学共通「秋田大学ジョブ・フェア」を後援します。日常的には各学生の就職活動に合わせ、エントリーシートの相談・添削、面接試験対策を個別に企業部門教員が中心になって対応しています。企業への就職活動についても、機会があれば、随時募集されるインターンシップ・就職体験の場、企業説明会の場を少しでも活かし、その働く場・企業に関する直接的情報を集めるべきです。また、良い企業は県外にばかりあるわけではありません。「小粒でもピリリ」企業は秋田県内にも隠れています。企業就職の活動では、早めの情報収集と行動が求められます。

今年度卒業生の就職率は結果的に例年とあまり変わりませんでした。しかし、残念なことに、これから3月末までに「新型コロナ」を理由とする内定取り消し状況が生じる場合も考えられます。以上の不測の状況にも少ないながら就職未定学生たちにも、できる限り、学生たちに寄り添った支援を続けたいと思います。

今後、特に新3・4年生が、より積極的に学部主催就職説明会等に出席してもらえるように、学部就職情報室を頼りにしてもらえるように、在学生には適宜、質の高い最新情報と助言と支援機会を提供すべく、より工夫を重ねて参ります。教育文化学部への御支援を、今後もどうかよろしくお願い申し上げます。

2月末データ

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	117	3	109	46	63	90	31	59	82.6	67.4	93.7	5
	地域文化学科	103	8	78	21	57	75	20	55	96.2	95.2	96.5	17
	小計	220	11	187	67	120	165	51	114	88.2	76.1	95.0	22
教育学研究科	25	0	22	17	5	21	16	5	95.5	94.1	100.0	3	
合計	245	11	209	84	125	186	67	119	89.0	79.8	95.2	25	

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程
こども発達コース3年次 永沼 育美

初めて就職情報室を利用した2年生の前期から現在まで、就職先の情報収集や進路相談、さらには最近の悩み相談といった、とても幅広い用途で活用しています。

就職情報室では、多種多様な情報を扱っているため、自分の進路にあった情報が得られるだけでなく、そこには、とても気さくで、いつも親身になって相談にのってくださる職員の方々がいらっしゃいます。私自身、進路について非常に悩むことが多く、相談させていただく度に、新たな視点や考え方に気づいたり、温かい言葉を頂いて勇気づけられたりしてきました。

また、就職情報室には、就職や教員採用試験に関する最新の情報を頂けるガジェットメール、さらには過去に就職活動を終えた先輩方の報告書や各種試験対策用の本が揃っているので、ぜひ活用してみてください。

加えて、後援会の皆様には、これまでたくさんのご支援を頂戴し誠にありがとうございます。皆様のご支援のおかげで、学業や就職に対し、充実して取り組むことができております。今後もご支援のほど、よろしくお願い致します。

教育文化学部 地域文化学科
地域社会コース3年次 高橋 元気

私が就職について本格的に考え、就職情報室を利用し始めたのは2年次の終わり頃でした。当時の私は就職活動をどのように進めていくのかなど、わからないことだらけでした。就職情報室では過去の先輩がどのように就職活動を進めていたかといった記



就職情報室は、教育文化学部3号館1階にあります。スタッフが就職相談に対応していますので、学生のみなさんは是非お気軽にご利用ください。

録を見ることができます。そこでどのように進めていけばいいのかを具体的に知ることができました。

就職情報室では、学生支援・就職課の職員の方を紹介して下さり、面談の機会をつくっていただいたこともあります。就職情報誌だけではわからない就職活動の「生の声」を聞くことができ、とても参考になりました。利用してよかったと感じています。

また私たち学生が充実した学生生活を送ることができているのは、後援会の皆様のご支援があってこそだと感じています。教育文化学部で学んだことを社会人になってから存分に発揮できるように、残り1年の学生生活を過ごしたいと考えています。

「旭水会」は 人生の応援団

旭水会会長 千葉 昭



新型コロナウイルス感染拡大から3年目になりました。中国武漢市から発生したコロナ感染拡大は瞬く間に世界的パンデミックを引き起こし、未だ収束の兆しが見られません。

国内でもデルタ株・オミクロン株の変異株が流行し感染患者の急増で医療逼迫に見舞われ、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返し発出されています。

秋田大学では、昨年6月イベントに参加した学生によるクラスターが発生し、キャンパスへの立ち入り制限や対面授業からオンライン等の遠隔授業になりました。また、学生の生活の一部でもあるアルバイトの自粛も要請されました。

令和3年3月の卒業式は、秋田大学手形キャンパスにある体育館で学部毎に卒業生と大学教員だけの式典になりました。4月の入学式は、県立武道館で挙行されましたが、保護者や来賓の参列は叶いませんでした。

教育文化学部同窓会「旭水会」では例年、山本学長はじめ大学の先生方をお招きし、卒業祝賀会(新入会員歓迎会)を開催していましたが、コロナ禍のため残念ながら3年連続中止せざるを得ませんでした。「旭水会」入会の機会がなく卒業された皆さんや新入生の保護者説明会で本会の活動や意義等を理解して頂く場がなくなり同窓の絆が薄れることを心配しています。

旭水会は、在校生に同窓会誌「旭水」の配付や学内外の体育・文化活動への助成や協賛、学生の生活支援のための寄附金提供も実施しています。

教育文化学部同窓会「旭水会」は、卒業生・在学生・大学院生の応援団です。お互いの住所やメールアドレスを登録して頂き、連携を深めると共により一層の交流・親睦を図ってまいります。

学生の学修の利に資すること —本委員会の取り組み—

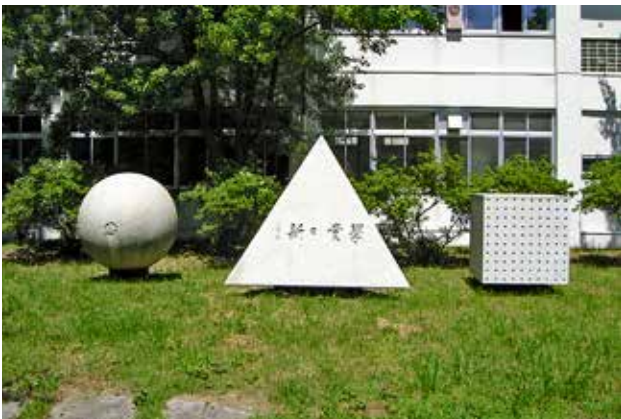
教務学生委員長 大橋 純一

大学での学修は、用意されたレールを踏み外さないことがまず大事ですが、同時に、その先のレールを自分の関心に沿って主体的に築き上げていくことが重要です。しかしその指針となる履修規定や単位認定の仕組みは、特に始めてそれに触れる新生生にとっては、必ずしも理解しやすいものとはいえません。主体性は重んじつつも、みずからのレール作りを有意義に進めていくための道しるべが必要です。

教務学生委員会は、学生の履修、単位・成績に関すること、生活上の困りごとなど、大学生活の主要な部分でその道しるべ役を担う委員会です。しかし昨年来のコロナ禍により、今年度はそれらと並行して、授業のあり方そのことを考える機会が少なくありませんでした。

この1年、授業は感染状況を見ながら、対面式を基本に調整を図ってきました。またそれがかなわない場合にも、オンラインでのライブ配信を中心に、画面越しのチャット機能（文字による双方向的な対話）、ブレイクアウトルームと呼ばれるセッション機能（少人数グループでの意見交換）を駆使するなど、対面にも劣らない授業を提供できたものと自負します。さらに大人数の授業では、教室を複数に分け、対面の1教室からオンライン中継するといった工夫もお願いしました。このようなことから、本学部では対面式かオンライン式かの二択にとらわれることなく、それぞれの良さを生かしながら、また各々の及ばない点を補い合いながら、多様な授業が展開されたということがいえます。

非常時にはこれまで当たり前できていたことを思い返し、今できないことを並び立てて落胆しがちです。しかしこうした事態を乗り切るためには、今ある状況に適應すること、その中でできることを模索し、不完全ながらもまずは行動に起こすことが大切であると教えられます。幸い、私たち教員もオンライン授業の知識を増やし、その良さも知り、効果的に活用していく術も自得しつつあります。模索は続きますが、次年度も学生一人ひとりの学修の利に資するべく、授業のより良い環境づくりに努めたいと思います。



百年の計は教育にあり

教育文化学部長 佐藤 修司

管子に「一年の計は穀を樹（う）うるに如（し）くはなく、十年の計は木を樹うるに如くはなく、終身の計は人を樹うるに如くはなし。一樹一穫なる者は穀なり、一樹十穫なる者は木なり、一樹百穫なる者は人なり。」という言葉があります。「国家百年の計は教育にあり」という名言の元にあたるものです。山本有三の『米百俵』では、百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となるとして、学校が建てられます。1947年に制定された旧教育基本法前文では、憲法が目指す民主的で文化的な国家の建設と、世界の平和と人類の福祉への貢献という理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである、とされていましたが、これも同じ趣旨のものと言えます。逆に、間違った教育が行われれば、その負の影響は百年以上続くでしょう。一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり。最初に適切な目標と計画を立てることが重要であり、そのことが最終的な成果、ビジョンの実現に大きな影響を与えます。百年ともなると、一つの世代では達成できず、次世代に託すことが必要になります。今の社会状況を見ると、ツケを次世代に遺していないのか気になるところですし、課題を次世代に丸投げするのも問題です。今やれることを必ずやりぬくこと、これが現世代の責任ですし、その背中を見て次世代は育っていきます。

大学・学部関係行事予定（令和4年3月～）

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 在学生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 7日 前期・第1クォーター授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 6月 10日 第2クォーター授業開始
- 8月 10日 夏季休業開始（10月2日（日）まで）
- 9月 30日 前期終了
- 10月 1日 後期開始
- 10月 3日 後期・第3クォーター授業開始
- 12月 5日 第4クォーター授業開始
- 12月 24日 冬季休業開始（1月5日（木）まで）
- 2月 17日 春季休業開始（4月3日（月）まで）
- 3月 23日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌



令和4年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>